

研究主題「自ら学び、自ら考え、主体的に判断する児童の育成

—学習計画ワークシートの活用を通して—

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
 世田谷区立下北沢小学校 主任教諭 高橋 裕也

第1 研究のねらい

総合的な学習の時間は、創設当初から「生きる力」を育むために、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を重視してきた。

しかし、所属校においては、自ら学び、自ら考え、主体的に判断することについて課題があると、児童の実態から感じている。また、平成27年度文部科学白書においては、「子供たちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びの過程が実現できているかどうか」という視点で授業改善をすることが必要であるとの指摘が記されている。以上のことから、総合的な学習の時間では、児童が自ら学習を見通し、計画を立てられるよう、教員が意図的な働きかけをすることが重要であると改めて考えた。

そこで、本研究では、児童が自ら学習を見通し、計画を立てる上での有効な手だてを開発し、検証する。本研究の手だてにより、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成できると考えた。

第2 研究仮説

児童は、課題の解決に向けて自ら学習を見通し、計画を立てることにより、自ら学び、自ら考え、主体的に判断する資質や能力が育成され、よりよく問題を解決する意欲を高め、すすんで解決しようとするであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

「小学校学習指導要領解説 総則編」(平成20年8月)によると、「児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする習慣の確立を図ることで、児童の学習意欲が向上するとともに、学習内容の確実な定着が図られ、思考力・判断力・表現力等の育成にも資することが考えられる。」という趣旨の記述があり、学習の見通しをもつことや計画を立てること、事後に振り返ることの重要性が示されている。「平成26年度東京都教育委員会教育研究員研究報告書(小学校総合的な学習の時間)」における調査では、「総合的な学習の時間で、これまで実践してきたことは何ですか(複数回答可)」という

質問に対して、「児童に計画を立てさせること」と回答した教員は44%であり、他の質問項目

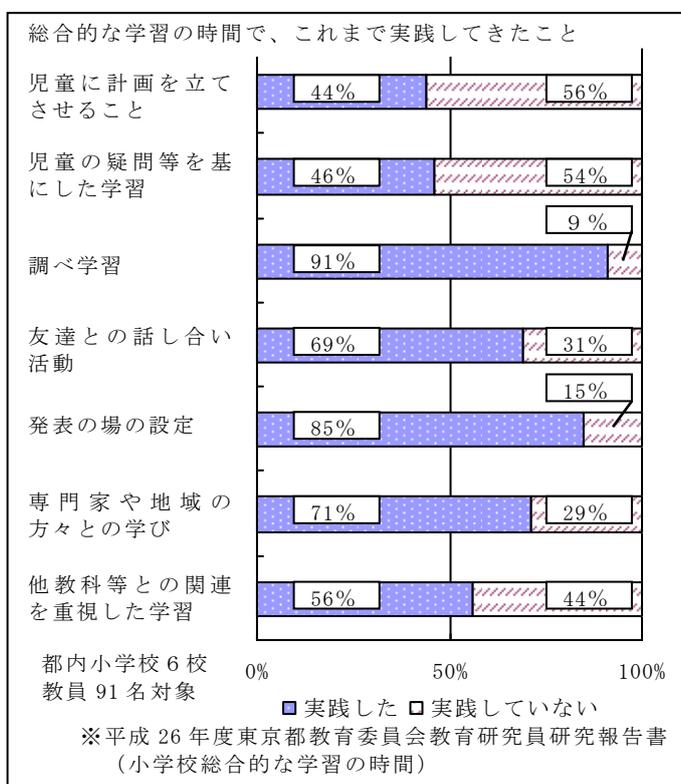


図1 総合的な学習の時間の実態調査

と比較して低い結果であった（図1）。

2 調査研究

(1) 調査の概要

平成28年7月、都内公立小学校4校の学級担任を対象に質問紙法により総合的な学習の時間における意識調査を行い、74名の教員から回答を得た。

(2) 調査結果の考察

児童が自ら学習計画を立て、課題解決に向けて見通しをもつように指導することを、「難しい」「やや難しい」と感じている教員の割合は89%と高い結果であった（図2）。一方、児童が自ら学習計画を立てるように意識して指導することで、教員は児童が主体的に活動していると感じる傾向があることが確かめられた（表1）。

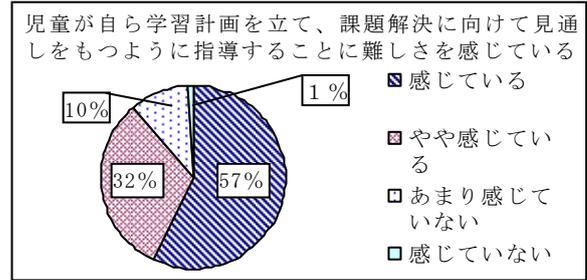


図2 児童が自ら学習計画を立てることを意識した指導についての、教員の意識調査

表1 児童が自ら学習計画を立てることを意識することと、児童が主体的に活動することとの関連

質問事項	質問文				
①意識した指導	児童が、自ら学習計画を立てるようにすることを指導上意識している				
②児童の主体的な活動	総合的な学習の時間において、児童が主体的に活動していると感じる				
	②児童の主体的な活動	していると感じる	している	しているあまり感じていない	合計
①意識した指導		(15人)	やや感じる(43人)	(16人)	(74人)
意識している(17人)		47%	53%	0%	23%
やや意識している(34人)		17%	71%	12%	46%
あまり意識していない(20人)		5%	50%	45%	27%
意識していない(3人)		0%	0%	100%	4%
合計(74人)		20%	58%	22%	100%

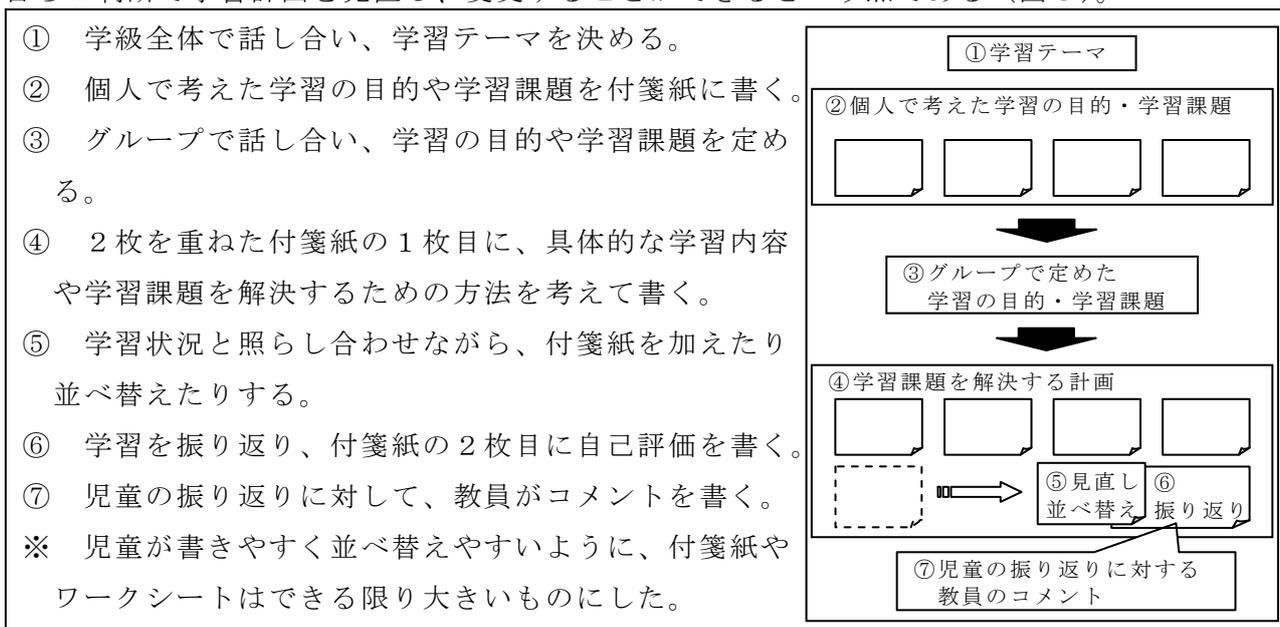
以上の基礎研究と調査結果から、「児童が自ら学習を見通し計画を立てることができる」ように教員が指導することは、児童の主体的な活動を促すことに効果的であることが確かめられた。しかし、多くの教員は、こうした指導に難しさを感じている。これは、教員が学習の見通しをもたせたり、計画を立てさせたり、学習したことを振り返ったりする活動をどのように計画的に取り入れていけばよいかと苦慮しているからである、と考えた。

3 開発研究

児童自らが、学習の見通しをもち、計画を立てることについて、多くの教員が感じている指導上の難しさを解消するため、「学習計画ワークシート」を活用した指導方法を開発した。

「学習計画ワークシート」は、学習課題の設定や学習課題を解決するための計画を立てる場面において、児童が付箋紙に自身の思いや学習の目的、学習内容、学習課題を解決するための方法を記入して並べることで、自らの学習の見通しや計画の全体像を明確にできるようにした。また、学習の過程において、学習状況と照らし合わせながら付箋紙を加えたり並べ替えたりすることで、計画の見直しが容易にできるようにした。さらに、授業の導入場面において学習の目的を確認したり、終末の場面において学習を振り返ったりできるようにした。

本研究で開発した「学習計画ワークシート」の利点は、児童が自らの学習状況を振り返り、自らの判断で学習計画を見直し、変更することができるという点である（図3）。



4 検証授業

図3「学習計画ワークシート」の活用方法

(1) 概要

平成28年10～12月、都内公立小学校の第3学年（2学級、67人）及び第6学年（2学級、67人）の児童を対象に、検証授業を実施した。検証授業を行うに当たり、児童の発達段階に合わせた指導をするため、これまでの総合的な学習の時間で学んだことに関する児童の意識を調査した。

① 検証授業1 第3学年 単元名「商店街博士になろう」

地域社会の課題について調べ、解決していく学習を行った。事前の調査から第3学年の児童は、他教科で学んだことを総合的な学習の時間で活用した経験が少ないことが分かった。そこで、指導上の配慮として、他教科で学んだ学び方や考え方を想起し本単元で活用するように、学級全体で話し合ったり、個別に助言したりした。

② 検証授業2 第6学年 単元名「みんなを結ぶオリンピック・パラリンピック」

オリンピック・パラリンピック教育の一環として、児童の興味・関心に基づき課題を追究していく学習を行った。事前の調査から第6学年の児童は、これまでの総合的な学習の時間で学び方を身に付けてきたことを実感しているが、課題を解決するために身に付けた学び方を活用するような指導を必要であることが分かった。そこで、「学習計画ワークシート」を活用して児童が見通しをもって自ら課題の解決を図れるよう指導した。また、活動ごとの学習の振り返りに対して、教員が助言や支援を記入するとともに、学習の見通しや活動内容を確認し、一人一人の学習状況に応じた指導を行った。

(2) 検証結果

検証授業前後における意識の変容を分析すると、「(1)次にどんなことをしようかと、計画を立てながら学習している」について肯定的に答えた児童は15ポイント上昇し、「(2)自分で調べてみたいことを見付けることができる」について肯定的に答えた児童は8ポイント上昇した。また、「(3)めあてに向かって学習に取り組んでいる」について肯定的に答えた児童は7ポイント

上昇し、「(4)自分からすすんで調べることができる」について肯定的に答えた児童は6ポイント上昇した(図4)。

また、検証授業における児童の姿からは、「学習計画ワークシート」を見合いながら話し合ったり、記入した学習の目的に沿って学習を進めたりしている様子が見られた。

「学習計画ワークシート」を活用することに慣れてくると、「計画を立てる際に考えた理由を書く方が効果的だ」と考えるようになり、学級で話し合っって学習のルールと決めるなど、自ら工夫し、より詳細な計画を立てられるようになっていった。

このような児童の変容から、本研究の手だてによって、児童は自ら学習を見通し、計画を立てるという意識を高めることを確認できた。そして、自ら学習課題を見付け、目的意識をもち、課題の解決に向けてすすんで情報を集めることが分かった。

一方、受動的に学習に取り組む児童の姿が一部見られた。児童に「学習計画ワークシート」の活用の仕方について理解させたり、学習意欲を持続させたりできるような手だてが十分講じられていなかったことや、児童が既習内容を活用して課題解決のための方法や手順を考えるための手だてが講じられていなかったことが要因として考えられた。

第4 研究の成果

「学習計画ワークシート」を活用した指導によって、児童は課題の解決に向けて自ら学習を見通し、計画を立てようとする意識の向上が確認できた。また、自ら学び、自ら考え、主体的に判断する力が発揮されている姿が見られた。さらに、よりよく問題を解決する意欲を高め、すすんで解決しようとする児童の意識については、肯定的な回答が増加した。しかし、全ての児童に成果が表れるためには、更に手だてを講じる必要があることが分かった。

第5 今後の課題

児童が学習意欲を持続し、自己の成長を実感できるような「学習計画ワークシート」を活用した指導方法について、他の単元や他の学年においても有効であるかを検討した上で、単元指導計画に位置付けていく。そして、児童が自ら学習を見通し、計画を立てる力についての各学年における指導方法の系統性を検討していく。また、本研究の成果を所属校や区市町村教育研究会等にて報告し、普及・啓発を図る。

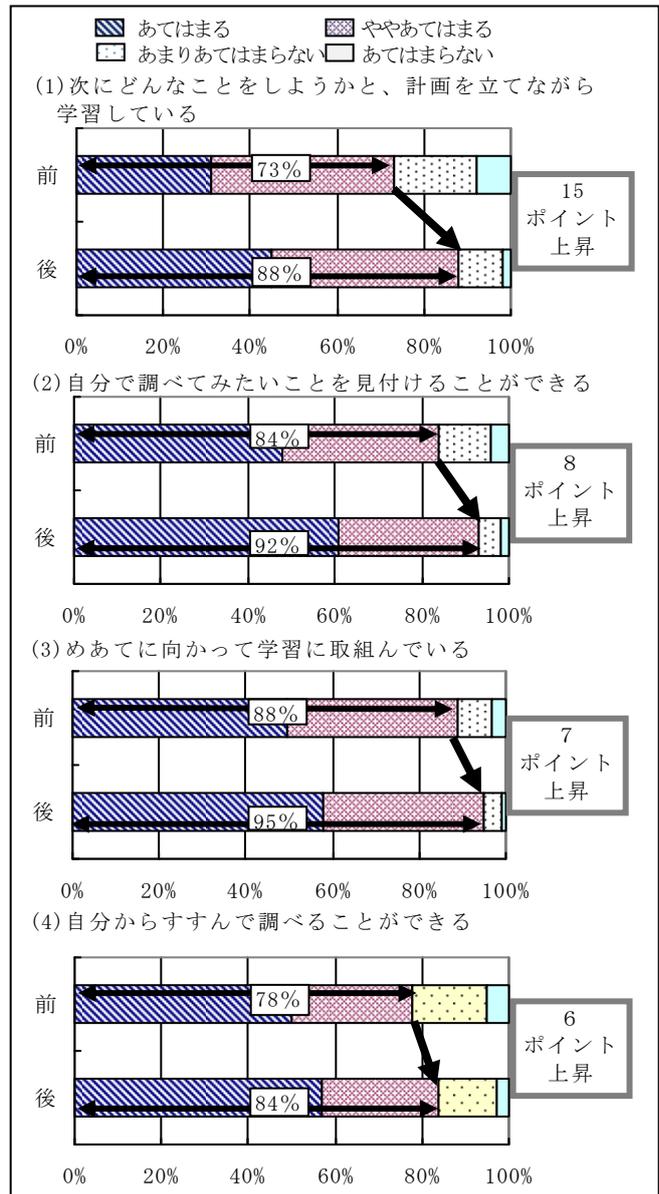


図4 検証授業学級における児童の総合的な学習の時間についての意識の変化